

つぼさか壺心会 93号



ロパ・ムドラ学校でのあいさつ

社会福祉法人 壺阪寺聚徳会職員インド研修(続報)

前号で報告させて頂いた社会福祉法人壺阪寺聚徳会職員のインド研修旅行について、前回お伝えできなかったインド北部アグラにあるロパ・ムドラ学校訪問の様子をご報告致します。

今回のインド研修旅行には「まつぼっくり少年少女合唱団」を主宰されている荒井敦子先生にご同行頂いており、同校でわらべうたを通じた交流会を行いました。学校に到着すると、すでに多くの子どもたちや先生方が校庭に集まってくれていました。職員一同は子どもたちの前で挨拶をし、子どもたちはダンスで歓待してくれました。その後、校庭から大きな教室に場所を変えて交流会を始めました。特に日本とインドで遊び方の共通する「ハンカチ落とし」を一緒になって楽しみ、子どもたちとの親交を深めました。前号のインド研修報告(座談会)でお伝えさせて頂きましたが、参加した職員一同はロパ・ムドラ学校を訪れて教育の大切さや壺阪寺とのご縁の深さを感じ取り、それぞれの職場に戻り、職務に励んでいます。



施設だより

老人ホームってなに？（特別養護老人ホームについて）

『親戚からそろそろ老人ホームへの入所を考えたら？と言われたんだけど…』

『どうしたらいいの？何をすればいいの？』

『老人ホームと言っても、色々な種類があるみたいで、なんか入る条件もあるらしいよ？』

『条件？どんな条件があるの？誰に聞けばいいの？』

『知り合いが言ってたけど、待っている人が200人ぐらい居て、入るまでに3～4年ぐらいかかるらしいよ』

『え～そんなにかかるの？』

上記のような会話は、最近では耳にするようになってきました。また介護相談に訪れる方からもよく尋ねられる内容です。

ではまず、老人ホームの種類からご紹介します。

- ①介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)
- ②介護老人保健施設
- ③介護療養型医療施設
- ④養護老人ホーム
- ⑤軽費老人ホーム ケアハウス
- ⑥グループホーム
- ⑦有料老人ホーム
- ⑧介護付有料老人ホーム
- ⑨健康型有料老人ホーム
- ⑩住宅型有料老人ホーム

※太字は壺阪寺聚徳会が運営している施設の種類

特別養護老人ホーム(特養)とは？

寝たきり状態など、介護を必要とする重度の要介護者が、少ない費用負担で長期入所できる施設です。

特別養護老人ホームのメリット・デメリット

特別養護老人ホーム(別称:特養、介護老人福祉施設)は、社会福祉法人や地方自治体などにより運営される公的な介護施設で、そこには主に、重度の要介護者が生活しておられます。

食事や排泄の介助などの介護サービスを中心に提供する特別養護老人ホームは、寝たきり状態など常時介護を必要とする要介護者の「生活の場」であり、様々な身体の介護や生活の援助とともに、各種レクリエーション等も提供しています。

入所基準は高く、医学管理下でのケアは限定的ですが、一度入所した人の多くはそこで残りの余生を過ごすため、重度の要介護者にとって「終の棲家」というような存在です。

メリット

- 1) 長期入所が可能
- 2) 利用料が比較的安い
- 3) 入居一時金が必要ない

デメリット

- 1) 医学管理下のケアは限定的
- 2) 入所するまでの期間が長期になることがある
- 3) 回復期リハビリテーションは少ない

特別養護老人ホームの費用

特別養護老人ホームの入所には、初期費用の必要はなく、月額利用料が必要になります。月額利用料は、居室の設備、世帯収入や課税状況によって差があるものの、おおよそ5万～13万円程度と有料老人ホームよりも抑えられています。

◎初期費用必要なし

◎月額費用5万～13万円

※上記は目安となります

特別養護老人ホームへの入所基準

特別養護老人ホームの入所対象者は、原則、要介護度1以上の65歳以上の高齢者という基本条件のほか、健康状態等、施設によって様々で、詳細は施設に問い合わせる必要があります。

年齢	介護レベル	認知症
65歳以上	要介護1～5	対応

特別養護老人ホームで提供されるサービス

特別養護老人ホームで提供されるサービスは、介護職員や看護職員による入浴・食事・排泄の介護、機能訓練指導員によるリハビリテーションや生活相談員によるカウンセリング、介護職員による掃除や洗濯、買い物やレクリエーションといった生活援助系サービス等です。

特別養護老人ホームの入所手続

特別養護老人ホームへの入所申し込みは、施設で行います。担当のケアマネージャーもしくは、代理の方に入居を希望する施設への入所申込書を書いてもらい、施設に提出します(複数の施設への申し込みも可能です)。

それを施設スタッフや医師等で構成される委員会が、「要介護度」「介護の必要性」「介護者の状況」「待機期間」「健康状態」などから、総合的に判断して決定します。

特別養護老人ホームの課題・問題点

特別養護老人ホームが抱える課題として、一般的には待機者が多く入所が決定するまでの期間が長いということがあります。細かなスタンスは各施設や都道府県によって様々ですが、現在では本当に必要と思われる方からの入所ご案内を推進しています。つまり、介護度が重度(介護度4・5)であったり、独居であったりすることが、優先的な入所に繋がるということです。しかし、身体的な介護は軽度であっても、認知症があり徘徊等がみられる方を家族が介護するのは、負担が大きいと思われます。ただ、現状の介護認定制度では認知症だけでは、介護度1・2になるケースが多く、なかなか入所の順番がまわってこないということもあります。

また、来年度からは特別養護老人ホームの入所基準に、介護度3以上という基準が設けられることになりましたので、ますます介護度1・2の方の行き場所が見つけれなくなると思います。そうなれば、特別養護老人ホームの待機者も半減することも予想できますが、利用者が減少することによるホーム運営上の問題が起こることも心配されます。

施設だより

特別養護老人ホーム第二慈母園、特別養護老人ホーム光明園 ～平成25年度の取り組みと課題～

前頁では、特別養護老人ホームについて一般的な説明をさせて頂きました。ここでは社会福祉法人壺阪寺聚徳会の運営する二つの特別養護老人ホームについて、平成25年度の取り組みと課題をご紹介します。

第二慈母園

第二慈母園は開設間もない平成14年に天皇皇后両陛下の来臨を受けるなど、多くの方々の来訪を受けさせて頂き、法隆寺も近く、悠久の歴史に育まれた斑鳩の地に根を下ろし、様々な福祉活動を行っています。

特別養護老人ホームの中の様子と私たちが直面している課題を説明させて頂きます。ホームには個室が26室、2人部屋が5室、4人部屋が6室設けられ、常時50数名のお年寄りが介護を受けながら生活しておられます。開設から10数年経ち、諸設備の不具合も見つかっております。昨年の冬にはノロウイルスの感染症が蔓延し、短期入所等をお断りするなど多くの方々にご迷惑をおかけしました。今後、他の感染症にも十分注意を払うと共にそれら

に対する正しい知識を身につける研修に励み、入居者の皆さまが快適な生活を送って頂けるように精勤させて頂きます。

入居の方々の高齢化も年々進み、平成25年度の平均年齢は88.1歳となりました。提供しているサービスの中で楽しみにして頂いているものとして入浴サービスがあります。入居者の日々の健康に留意しながら、そのスケジュールも決めておりますが、高齢の方々の入浴はもっとも注意を要する介護のひとつです。その他、褥瘡(じょくそう)予防や認知症ケア等の職員研修も重ねており、介護技術とそれを支える福祉の心の研鑽に励むことにより、入居者の方々に少しでも快適な生活を送って頂きたいと思っております。

光明園

光明園は壺阪寺のふもとに位置し、のどかで緑豊かな高取町にあります。当園は壺阪寺境内にある養護盲老人ホーム慈母園に入居されている人の中で介護が必要となった方や手厚いお世話を望まれる近隣のお年寄りの方への特別養護老人ホームとして、昭和56年に開園しました。皆様の支えもあり、創立33年目を迎えることができました。

その歴史ある光明園が直面している課題としましては、平均年齢が87.9歳と第二慈母園同様に入居者の高齢化や、創立33年目を迎えたことによる施設・備品の老朽化が挙げられます。定期的に修繕や取り替えを行っておりますが、介護技術やリハビリ、事故防止等の職員研修を繰り返し行うことにより、正しい技術や知識を習得し、今

後も皆様に安心して楽しく暮らして頂けるようにしていきたいと考えております。

また、日頃から報道されていることですが、福祉業界は人手が足りないと言われております。これは施設の諸状況によって異なりますが、当園は人口の少ない高取町にあるため、人材の確保が容易ではないという課題も抱えています。

そこで、当園では、日本・インドネシア間の経済連携協定により派遣されたインドネシア人介護福祉士候補生の女性2名を受け入れ、将来の介護人材の育成・確保に努めております。彼女たちの実直でなんでも吸収しようとする積極的な姿勢は周りの職員の刺激になっています。

奈良県内にはたいへん多くの特別養護老人ホームがありますが、今号でご紹介した両施設とも視覚障害をお持ちのお年寄りの方に対応できる設備と職員のいる施設として稀有な存在であり、同時に大きな特色となっているように思います。今後も施設の近隣の方々はもちろんのこと、県内外の目のご不自由なお年寄りの方にも穏やかに暮らして頂けるような施設づくりに職員一同精進してまいります。

A I V だ よ り

ベンガルール支援先施設訪問① マルガダルシ

昨年の12月にアジア・アフリカ国際奉仕財団(AIV)のスタッフ(岩井、上岡)が渡印した際の続報として、今回はインド南部ベンガルールでの活動報告をさせていただきます。

ベンガルールにはAIVと協働している「サンプルナ」という支援団体があります。サンプルナは本会報上で今までに何度も掲載していますが、この団体はアグラにあるハンセン病救済センター(JALMA)に勤務されていた医師とそのご夫人によって運営され、ベンガルールを中心に活動されている団体です。

今回はサンプルナが支援している3施設のうち2施設(マルガダルシとスパルシャ)を訪問し、両施設の活動を見学しました。障害者支援施設の「マルガダルシ」は平成25年に新しい場所に移り、写真にあるように、支援者からの寄贈による新しい戸建ての建物になりました。

この施設には、医療が行き届かない村落で生まれ、医療への無知など様々な理由で身体に障害を負った10代から20代の女性十数名が共同生活を送っています。彼女らの日常生活は数名の女性スタッフの援助によって支えられています。大半の女性は仕事に就けていないため外部からの支援を必要としており、女性の中には近くの銀行で会計の仕事を得た方もいます。障害の程度はそれぞれですが、日常生活において料理や洗濯といった身の回りのことはお互いに助け合いながら、できることは自分たちでするように努めておられます。訪問した私たちにも彼女ら自らがクッキーやお茶(チャイ)等を出してくれたり、できることは自分でするという自立への強い意志が感じられました。調理場やベッドが並ぶ彼女たちの生活スペース等も十分に確保されていました。今回の訪問の折に皆様から頂いたご浄財でサンプルナを通じて彼女たちの生活必需品である米や食料品、日用品5万ルピー(邦貨85,000円相当)分を購入し、渡してまいりました。将来就きたい仕事に向かって、できるだけ自立しようとしている彼女たちに今後も支援が続けられるよう引き続きご協力よろしくをお願いします。



マルガダルシ外観



協力して調理した料理です



ベッドが並んだ生活スペース

A I V だ よ り

ベンガルール支援先施設訪問②スパルシャ

児童養護施設の「スパルシャ」は今年度から支援を開始した団体です。この施設はスラム街にあり、周りの衛生環境も悪く、その中で右の写真にあるような平屋建て2棟の建物で、親の暴力、離婚等により、親と離れて生活することを余儀なくされている子どもたちへの福祉・養護活動がなされています。左側の棟には大教室(レクリエーション室)と厨房等があり、右側の棟には小さな図書室と教室があり、子どもたちの描いた絵がたくさん飾られていました。

この施設では6歳から14歳の子どもたち27名が暮らしています。27名のうち、26名は女の子で、残りの1名は男の子です。本来は女の子だけの施設ですが、男の子はまだ低学年ということもあり、共同で生活しています。子どもたちは普段は公立学校に通っていますが、家庭の事情から教育の機会を与えられなかった子どもがおり、就学年齢に差が生じています。基礎的な教育は学校で学んでいますが、施設内では複雑な家庭事情で育ったことも考えて、情操教育に力を入れており、特にダンス教育を通して、チームでひとつのことに取り組む大切さを子どもたちが身に付けられるようなカリキュラムが重視されています。壁面には様々な賞を受賞された盾が飾られ、その成果が表れているように思いました。

スパルシャの施設はベンガルール市内に同様の施設が5カ所あり、多くの子どもたちが共同生活を送っていますが、公的な補助金が最近打ち切れ、運営に難渋されていましたので、子どもの教育に力を注ぐAIVの目的に合致することから援助を開始しました。親とは生活できなくても子どもたちも元気よく生活し、彼らの夢が叶えるように継続的にサポートする計画です。初年度(平成26年度)は3万ルピー(邦貨51,000円相当)を運営費として援助しました。



スパルシャ外観(建物の左半分)



ダンスを披露してくれました



スパルシャ代表者(左)と打合せ

つぼさか壺心会 平成25年度 会計報告

いつも、つぼさか壺心会へのあたたかいご理解とご協力を頂き、誠にありがとうございます。皆様からの会費やご寄付によって平成25年度も活動を行うことができました。主な活動内容と、収支のご報告をさせていただきます。

収入の部では、つぼさか壺心会会費収入が前年度に比べて約30万円増加しました。新たにご入会下さった方や数年をあけて再び継続して下さった方が増えたためです。寄付金収入では、前年度に比べて2倍になり、特にインドのアグラにあるロパ・ムドラ学校の校舎修繕事業に対する多くのご支援を頂きました。

一方、支出の部ではアジア・アフリカ国際奉仕財団への寄付が大半を占めています。この寄付金は先にふれたロパ・ムドラ学校の校舎修繕事業に充てられました。新しく、そして明るくなった学び舎に生徒たちはもとより、先生方も大変喜んでおられます。

平成26年度も、よりよい活動となるよう努めて参りますので、変わらぬご理解、ご協力を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

収入の部

科目	金額	内訳
会費収入	1,272,000	
入会金収入		35,000
継続金収入		1,237,000
寄付金収入	2,110,325	
壺心会寄付金		2,051,645
福祉ふきん		58,680
募金収入	243,277	
受取利息	194	
前期繰越金	3,496,033	
収入合計	7,121,829	

支出の部

科目	金額
寄付金	3,400,000
印刷費ほか	710,726
次期繰越金	3,011,103
支出合計	7,121,829



つぼさか壺心会会員制度

つぼさか壺心会とは

つぼさか壺心会は、壺阪寺が行う福祉事業を応援する会です。

壺阪寺は、昭和30年代から国内では盲人の方に対して、国外ではハンセン病患者に対してご奉仕を行ってきました。今では、国内は社会福祉法人壺阪寺聚徳会として、国外ではアジア・アフリカ国際奉仕財団として活動を続けさせていただいております。

これらの福祉事業を多くの方々にご存知いただき、また支えていただくために「つぼさか壺心会」は設立されました。現在は、当会報や壺阪寺境内においての広報活動、会員の方々へ事業の報告を行ったり、みなさまからのあたたかいご支援を国内外の福祉事業の充実に使わせていただく際の「橋わたし」の役割をしています。

一般財団法人
アジア・アフリカ
国際奉仕財団
(AIV)

社会福祉法人
壺阪寺聚徳会

つぼさか壺心会

初年度 5,000 円 (入会金 1,000 円含む)
継続 4,000 円

●会員特典●

- 会報送付(年4回) 壺阪寺入山料無料(1名様)
 各種催しのご案内

■ 賛助会員 1,000 円

■ 会員特典: 会報送付(年1回/1月号)

壺 阪 寺

7月～11月 行事予定

●8月

◎ライトアップ夜間拝観

8月中の土曜・日曜(18時～20時 拝観料300円)

◎8月観音ご縁日(大施餓鬼会)

8月18日(月)11時半より

壺阪寺住職法話会、大施餓鬼会法要(ご先祖様を偲び感謝する法要)

●9月

◎9月観音ご縁日(彼岸回向会)

9月18日(木)11時半より

壺阪寺住職法話会、永代供養者総回向会、彼岸回向会

●10月

◎壺阪観音お身拭い参拝(秋の特別拝観)

10月11日(土)～11月30日(日)

期間中毎日9時～16時 志納金500円

◎10月観音ご縁日(眼鏡供養会・眼病封じ祈願会)

10月18日(土)11時半より

壺阪寺住職法話会、眼鏡供養会、眼病封じ祈願会

●11月

◎11月観音ご縁日

11月18日(火)11時半より

紅茶募金のお知らせ

前々号から本会報に同封致しました「紅茶募金ご協力をお願い」ですが、皆様からのあたたかなご支援のおかげで、ご用意させて頂いた数量に達しました。多大なるご協力を頂戴し、誠にありがとうございました。秋(10月頃)になりましたら、再度準備させて頂きますので、引き続きご協力賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



編集後記

ニュースや新聞では、アジアの情勢が連日のように報道され、緊張の日々が続いております。日本で生活していると、平和な日々が当たり前になっておりますが、日本におきましても最近では、耳を疑うような凶悪な事件が多発しているように思います。

良いニュースも悪いニュースも日々の生活のBGMになるのではなく、しっかりと耳を傾け、考えるということをお忘れなく。これが大切であると思います。(鳥越)